

Brief Smell Test による軽度認知障害 スクリーニングの試み

木村 武実 林田 秀樹* 高松 淳一

IRYO Vol. 63 No. 4 (248-253) 2009

要 旨

アルツハイマー病：Alzheimer's disease (AD) 患者では、嗅覚障害がしばしば認められ、その診断のために嗅覚検査が有用であることが報告されている。一方われわれは、AD だけでなくその前段階と考えられている軽度認知障害：mild cognitive impairment (MCI) 患者でも嗅覚障害がみられることを経験している。そこで、3つの匂いによる簡易嗅覚検査：Brief Smell Test (BST) を作製し、MCI および AD のスクリーニングを試みた。

対象者は、AD 群が31名、MCI 群が18名、健常群が31名であった。BST (3点満点) の平均得点は、健常群が 2.74 ± 0.51 点、MCI 群が 1.28 ± 1.27 点、AD 群は 0.71 ± 0.97 点であり、健常群と比べ MCI 群、AD 群はそれぞれ有意に低値であった。BST の AD 群と健常群とのカットオフ値を $1/2$ と設定すると、感度は83.9%、特異度は96.8%であり、MCI+AD 群と健常群とのカットオフ値を $2/3$ と設定すると、感度は83.7%、特異度は77.4%であった。

これらのことから、AD だけでなく MCI もすでに嗅覚障害をきたしており、BST が MCI のスクリーニングとして使える可能性が推察された。

キーワード 軽度認知障害, アルツハイマー病, 嗅覚障害, brief smell test

はじめに

わが国では、2000年の認知症患者数は160万人であったが、現在は推計約230万人と急増し、これにともない認知症患者を取り巻く社会のさまざまな課題が浮き彫りになってきた。近年、認知機能障害の進行抑制のためのアプローチが開発中であるが、その効果は認知症の早期段階でより期待できると考え

られている。Petersen ら¹⁾は、認知症の前段階として軽度認知障害：mild cognitive impairment (MCI) という概念を提唱した。そこで、MCI を含めた認知症の早期診断が注目されるようになった。

アルツハイマー病：Alzheimer's disease (AD) 患者では、嗅覚障害がしばしば認められ²⁾、AD 診断のための嗅覚検査の有用性が報告されている。Duff ら³⁾は、Pocket Smell Test (PST) を作製し、

国立病院機構菊池病院 臨床研究部 *くまもと悠心病院
別刷請求先：木村武実 国立病院機構菊池病院 臨床研究部 〒861-1116 熊本県合志市福原208
(平成20年7月17日受付, 平成21年2月13日受理)

Attempt to Screen for Mild Cognitive Impairment by Brief Smell Test.

Takemi Kimura, Hideki Hayashida* and Junichi Takamatsu, NHO Kikuti National Hospital, *Kumamoto-Yusin Hospital

Key Words: mild cognitive impairment, Alzheimer's disease, olfactory disturbance, brief smell test